

教科	科目
国語	古典A
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次進学教養(E)

**履修条件等**

履修条件等… 特になし

人数制限… 特になし

**学習内容等**

科目の目標… 古典としての古文と漢文、古典に関連する文章を読むことによって、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。

授業形態… 一斉授業

年間授業計画	
4月	○説話: 古文の読み方の基礎を確認するとともに、登場人物の行動を的確に読みとり、話の面白さを理解する。
5月	
6月	○随筆: 古人の考え方や発想を理解する。
6月	○物語: 登場人物の言動を通して、古人の生き方、生活文化、ものの見方や考え方などについて認識を深める。
7月	
9月	○日記: 形式・文体・作者の意図を理解する。
10月	○故事・逸話、史伝: 現代の感性にも通ずる古人にまつわる話や、日本語に生きる漢語を通して、言葉の奥深さを学ぶ。
11月	
12月	○百人一首: 実際に行い、歌を味わう。
12月	
1月	
2月	○詩文、思想: 現代でも親しまれている名作にふれ、作品の表現や作者の心情、主張を読み味わう。

観点別評価規準・評価項目	
関心・意欲・態度	様々な文章を通し、古典特有の表現を味わったり、古文の読み方の基礎を理解しようとする。 授業への取り組み、ノート、ファイル
思考・判断・表現	古典などに表われた思想や感情を読みとり、人間、社会、自然などについて考察している。 定期考査、授業への取り組み、ノート、ファイル
技能	古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて考えることができる。 定期考査、小テスト
知識・理解	言語文化の特質や、我が国の文化と中国の文化との関係について理解している。 定期考査、小テスト

**考査点と平常点の割合**

考査:6割 平常点:4割

**使用教材等**

教科書…三省堂『古典A』  
副教材…東京書籍『新総合 図説国語』(1年次に購入済み)

**進路・資格等**

卒業後の進路… 文系希望者で古文・漢文が必要な者、及び古典に興味関心のある者を対象とする。

関連資格… 特になし

教科	科目
数学	数学B
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次進学教養(E)

**履修条件等**

履修条件等… 2年次で「数学Ⅱ」を履修していること。

人数制限… 特になし

**学習内容等**

科目の目標… 基本的な知識と技能を身に付け、事象を数学的に考察する力を培う。数学のよさを理解するとともに、それらを活用する態度を養う。

授業形態… 一斉授業

年間授業計画	
4月	数列① 簡単な数列について理解し、それらを事象の考察に活用できるようになる。
5月	
6月	数列② 漸化式、数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようになる。
7月	
9月	
10月	ベクトル① 平面上のベクトルの基本的概念について理解し、それらを事象の考察に活用できるようになる。
11月	
12月	
12月	ベクトル② 平面から空間に拡張することができることを理解し、事象の考察に活用できるようになる。
1月	
2月	

観点別評価規準・評価項目	
関心・意欲・態度	数学に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを活用しようとする。 出席、授業への取り組み、ノート
数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、試行の過程を振り返ることができる。 授業への取り組み、ノート
数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 定期考査、小テスト
知識・理解	基本的な概念・原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。 定期考査、小テスト

**考査点と平常点の割合**

考査:7割 平常点:3割

**使用教材等**

教科書…実教出版「高校数学B」  
副教材…実教出版「アクセスノート 数学B」

**進路・資格等**

卒業後の進路… 大学進学(特に理工系)や看護学校への進学、公務員試験を考えている者は履修することが望ましい。

関連資格… 特になし

教科	科目
外国語	英語表現Ⅱ
単位数	必修・選択(枠)
4単位	3年次進学教養(FG)

**履修条件等**

履修条件等… 2年次で「英語表現Ⅰ」を履修していること

人数制限… 特になし

**学習内容等**

科目の目標… 英語表現Ⅰで学習した事項を土台として、標準的な英語力の習得を目指す。4技能をバランスよく身につける。

授業形態… 一斉授業

年間授業計画	
4月 ∩ 6月	英語表現Ⅰの復習をしながら、時制、助動詞、受動態の構造や語法を身につける。 (現在形、未来形、完了形、助動詞、受動態を理解する)
6月 ∩ 9月	英語表現Ⅰの復習をしながら不定詞、動名詞の構造や語法を身につける。 (自動詞＋不定詞、疑問詞＋不定詞、動名詞、分詞構文、withで付帯状況を表す表現を理解する)
10月 ∩ 12月	英語表現Ⅰの復習をしながら比較表現、関係詞、仮定法、否定表現、話法の構造や語法を身につける。 (比較級、最上級、関係詞の非制限用法、複合関係詞、間接語法を理解する)
12月 ∩ 2月	英語表現Ⅰの復習をしながら重要構文の構造や語法を身につける。 (無生物主語構文、譲歩構文、強調表現、群動詞、群前置詞を理解する)

観点別評価規準・評価項目	
関心・意欲・態度	言語活動に積極的に取り組んでいる。 授業や課題への取り組み
思考・判断・表現	語句や活用法などを正しく用いて表現している。 発表、会話、定期考査
技能	辞書などを活用し英作文している。 資料の読み取り
知識・理解	文の構造や語法など正しく知識を身につけている。 定期考査、小テスト

**考査点と平常点の割合**

考査:6割 平常点:4割

**使用教材等**

教科書…三省堂『MY WAY English Expression Ⅱ』  
副教材…三省堂『エースクラウン英和辞書』  
(1年次購入済み)

**進路・資格等**

卒業後の進路…大学進学(特に理工系)や看護学校への進学を考えている者は履修することが望ましい。

関連資格…特になし

教科	科目
商業	ビジネス実務
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次産業情報(E)

**履修条件等**

履修条件等… 特になし

人数制限… 20人程度

**学習内容等**

科目の目標… 組織の中で良い人間関係を作ることが仕事を進める上で大切である。企業の組織と人間関係を学び計算の基礎となる電卓操作、あるいは文書作成の方法を学ぶ。

授業形態… 一斉授業、演習

年間授業計画	
4月 ∩ 6月	・企業の組織と人間関係・ビジネス文書 (現在の社会はコンピュータ操作が必要不可欠なものとなっている。その中でタイピングの基礎を学習しビジネス文書の作成を学ぶ)
6月 ∩ 9月	・ビジネスマナーを学習し、オフィス実務・珠算電卓に関する知識や技術をビジネスの諸活動に活用できるように学習する。
10月 ∩ 12月	・企業の組織と意志決定の流れ、職業人としての心構えと良好な人間関係の構築の必要性、仕事の進め方や改善方法などを扱う。
12月 ∩ 2月	・オフィス環境の整備の重要性、資料管理の方法、会議の準備と効果的・効率的な運営、グループウェアや会計ソフトの扱い方の学習

観点別評価規準・評価項目	
関心・意欲・態度	現代社会の基本的な問題に関心を持ち、意欲的に授業や課題に取り組んでいる。 出席状況、授業への取り組み、等
思考・判断・表現	社会での適応力を目指し問題解決能力を養う。 プリント・演習・小テスト
技能	ビジネス文書・電卓の効率的な運用が出来るようにしたり、社会での適応能力を学習する。 教科書の例題・過去問題演習
知識・理解	社会へ出てから困らないように能力・適性を身に付ける。 プリント・演習・小テスト

**考査点と平常点の割合**

考査:6割(授業内で実施する。)  
平常点:4割(授業態度・取り組み等)

**使用教材等**

教科書…実教出版『ビジネス実務』  
副教材…ビジネス文書実務検定模擬問題集  
電卓検定模擬問題集 他  
電卓等は各自準備すること

**進路・資格等**

卒業後の進路…一般事務・販売職・営業職 等

関連資格…ビジネス文書検定 3級 2級  
電卓検定 3級 2級

教科	科目
商業	情報処理
単位数	必修・選択(枠)
4単位	3年次産業情報(FG)

**履修条件等**

履修条件等…特になし

人数制限…20人

**学習内容等**

科目の目標…表計算ソフトである Excel を中心としたコンピュータの知識・技術を得得し、社会で適応できる能力や態度を身につける。

授業形態…一斉授業・演習

年間授業計画	
4月 5月 6月	コンピュータに関する知識 ビジネスと情報処理
6月 7月 9月	表計算ソフト活用の基礎Ⅰ SUM・MAX・MIN・IF 関数などの理解問題集から抜粋した問題をこなすこと によってビジネスの諸活動において、情報を扱う者の 役割や責任について考えさせる。
10月 11月 12月	表計算ソフト活用の基礎Ⅱ 後期より習熟度別学習を展開してより細やかな学習 が出来るように展開する。
12月 1月 2月	表計算ソフトExcelによる応用演習 表計算ソフトの各種の関数や機能を活用して、ビジネスに 関する情報を処理・分析した結果を表現する方法及び統計 よりの基礎的な方法を扱う。 データベースソフトの活用の基礎

**別評価規準・評価項目**

関心・意欲・態度	パソコンに興味・関心を持ち、意欲的に学習に取り組む。 出席・授業への取り組み
思考・判断・表現	実社会に出て活躍できるようにその場に 応じた情報の収集・処理・分析が出来る。 プリント・演習・小テスト
技能	事象の問題解決に結びつくように応用力を身につける。 教科書の例題・過去問題演習
知識・理解	基本的な操作を理解して知識を身につける。 プリント・演習・小テスト

**考查点と平常点の割合**

考 査:6割(授業内で実施する。)  
平常点:4割(出席・態度・意欲・身だしなみ等)

**使用教材等**

教科書…実教出版『情報処理新訂版』  
副教材…全商情報処理検定(模擬問題集) 670円

**進路・資格等**

卒業後の進路…一般事務・販売職・営業職 等

関 連 資 格…全商情報処理検定 3級 2級

教科	科目
工業	電気・電子実習
単位数	必修・選択(枠)
4単位	3年次産業情報(EF)

**履修条件等**

履修条件等…「通信技術」を選択していることが望ましい

人数制限…12人

**学習内容等**

科目の目標…ものづくりなどの体験授業を通して、専門分野に関する基礎的・基本的な知識、技術を身につける。

授業形態…実習、実験

年間授業計画	
4月 5月 6月	ダイオードの静特性、トランジスタの静特性、トランジスタ増幅回路等の実験を通じて半導体を利用した電子回路について学ぶ。
6月 7月 9月	オシロスコープの使い方、RC発振回路、LC発振回路等の実験を通じて、電気(無線)通信技術の基礎を学ぶ。
10月 11月 12月	電気工事実習を通じて、第2種電気工事士の取得を目指すとともに、家庭用屋内配線についての知識を身につける。
12月 1月 2月	コンピュータを使いプログラミングやコンピュータグラフィックの基礎的な実験を通じて工業に必要なコンピュータ技術を身につける。

**観点別評価規準・評価項目**

関心・意欲・態度	電気・電子に興味・関心を持ち、意欲的かつ誠実な態度で授業に臨む。 出席・授業への取り組み
思考・判断・表現	電気のルールに則って電気工事を 行い、作品や配線図などを用いて表現することができる。 実習レポート
技能	電気工事士などの実習を通じて技能を身につける。 実験実習への取り組み、レポート
知識・理解	基本的な操作を理解して知識を身につける。 プリント、作品

**考查点と平常点の割合**

実 習:7割 平常点:3割

**使用教材等**

教科書…なし  
経 費…実習費(金額未定)

**進路・資格等**

卒業後の進路…電子・情報系への進学・就職を希望する者に勧める。

関 連 資 格…第2種電気工事士

教科	科目
工業	生産システム技術
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次産業情報(G)

**履修条件等**

履修条件等・・・「通信技術」を選択していることが望ましい

人数制限・・・ 12人

**学習内容等**

科目の目標・・・ 電気、電子、機械、計測・制御の基礎的な知識を習得する。

授業形態・・・ 一斉授業

年間授業計画	
4月 ∩ 6月	電子回路(半導体, ダイオード, トランジスタ, LED)について学習し, 今日の日本の産業の根底を支える技術について学ぶ。
6月 ∩ 9月	情報器機(コンピュータ)と電子部品(RLC)について学習し, コンピュータネットワークの基礎基本を身につける。
10月 ∩ 12月	計測基礎(計測機器, 計測理論), 制御技術(シーケンス制御, フィードバック制御)について学び, ものを作ることの基礎を学ぶ。
12月 ∩ 2月	生産管理とシステム技術全般について広く学び, 本校で学んだことが実社会でどのように役立っているのかを知る。

観点別評価規準・評価項目	
関心・意欲・態度	生産システムに興味・関心を持ち, 意欲的かつ誠実な態度で授業に臨む。 出席・授業への取り組み・提出物
思考・判断・表現	工業のルールに則って電気の事象を図や数式などを用いて表現することができる。 定期考査, 小テスト, 授業プリント
技能	事象の問題解決に結びつくように応用力を身につける。 授業への取り組み
知識・理解	基本的な操作を理解して知識を身につける。 プリント, 演習, テスト

**考查点と平常点の割合**

考 査:7割 平常点:3割

**使用教材等**

教科書・・・実教出版「生産システム技術」

**進路・資格等**

卒業後の進路・・・電子・情報系への進学・就職を希望する者に勧める。

関連資格・・・第2種電気工事士

教科	科目
芸術	美術Ⅱ
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次生活表現(E)

**履修条件等**

履修条件等・・・「美術Ⅰ」を履修済みであること

人数制限・・・ 20人

**学習内容等**

科目の目標・・・ 基礎・基本的な美術の知識・技能を応用し, 幅広い創作・鑑賞活動を行い, 美術文化についての理解を深める。

授業形態・・・ 一斉授業・個人制作

年間授業計画	
4月 ∩ 6月	●卒業アルバム表紙デザイン ・視覚効果を生かし, 描画材を自身で選択して制作したのち, プレゼンテーションを行う。
6月 ∩ 9月	●桜が丘祭ポスター制作 ・クライアントのニーズやコンセプトを意識し, 視覚伝達の実践としてポスターを制作する。
10月 ∩ 12月	●表現の広がり ・抽象表現やパブリックアート(彫刻・塑造)など美術の表現の広がりを鑑賞と制作から学ぶ。
12月 ∩ 2月	●美術文化への理解 ・生活に生きる美術の役割を身近にある製品デザインや複合作品などの鑑賞・制作から学ぶ。

観点別評価規準・評価項目	
関心・意欲・態度	つくること, 観ることなど, 授業に積極的に取り組んでいる。 出席状況, 授業や課題に対する取り組み
思考・判断・表現	主題を理解し, 表現方法を考えながら様々な視点で構想を練り, 表現している。 アイデアスケッチ, 発表, プレゼンテーション
技能	素材の特性を生かしながら主題にあった表現方法を工夫して創造的に表現している。 作品課題の取り組み
知識・理解	作品や作者の個性を理解し, 表現の工夫などについて分析し理解している。 ワークシート, 感想シート, 発表

**考查点と平常点の割合**

考査は実施せず, 作品や制作態度, 作品提出等で評価する。

**使用教材等**

教科書・・・日本文教出版「高校美術2」  
経 費・・・教材代(3,000円程度)

**進路・資格等**

卒業後の進路・・・大学・専門学校・短大などに進学し, 美術職に就きたい者に勧める。

関連資格・・・特になし

教科	科目
芸術	構成
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次生活表現(F)

教科	科目
芸術	工芸Ⅱ
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次生活表現(G)

履修条件等
履修条件等…特になし

履修条件等
履修条件等…「工芸Ⅰ」を履修済みであること

人数制限…20人
学習内容等

科目の目標… 基礎・基本的な美術の知識・技能を応用し、幅広い創作・鑑賞活動を行い、「変化と統一」についての構成力を高める。

人数制限…20人
学習内容等

科目の目標… 前期と後期で「陶芸」と「木工」を学び、素材を生かしながら応用的な知識、技能を習得し、「用と美」についての理解を深める。

授業形態…一斉授業・個人制作
年間授業計画

4月	●素描の基礎・基本的な技術の習得
5月	・鉛筆のタッチによる表現の広がりなどの描写力を身につけ、画面に構成する能力を高める。
6月	●テーマ制作
6月	・様々な描画材やモチーフ(描く対象)を描き、材料の特性についての理解を深める。
9月	●空間構成
10月	・対象をよく観察し、その奥行きやパースを見分けて空間の意識を高め、描写力と構成力を高める。
12月	●立体構成
12月	・立体物の組み合わせからその効果や質感・量感などの違いを学び、構成力を高める。
2月	

授業形態…一斉授業・個人制作
年間授業計画

4月	●「陶芸」
5月	・工芸Ⅰで学んだ内容をさらに深めて、手びねり・スラブローラー(板作り)の成形による制作を行う。
6月	●生活に生きる「用と美」の陶器制作
6月	・素焼き、施釉、本焼きの基礎から、生活に生きる工芸の働きを学び、テーマ作品を制作する。
9月	●「木工」
10月	・木工具や木材の基礎技術を応用させて、用途と造形美を意識した小作品を制作する。
12月	●生活に生きる「用と美」の木工品制作
12月	・工芸作品のデザインの鑑賞から生活に生きる工芸の働きを学び、技術を応用して作品を制作する。
2月	

観点別評価規準・評価項目	
関心・意欲・態度	つくること、観ることなど、授業に積極的に取り組んでいる。 出席状況、授業や課題に対する取り組み
思考・判断・表現	様々な材料の特性を理解し、様々な視点で構想を練り、表現の可能性を追求している。 アイデアスケッチ、発表、プレゼンテーション
技能	素材などを効果的に用いながら、美的秩序を意図して創造的に表現している。 作品課題の取り組み
知識・理解	作品や作者の個性を理解し、表現の工夫や効果について理解している。 ワークシート、感想シート、発表

観点別評価規準・評価項目	
関心・意欲・態度	つくること、観ることなど、授業に積極的に取り組んでいる。 出席状況、授業や課題に対する取り組み
思考・判断・表現	素材や用具の特質を理解し、様々な視点で構想を練り、表現の可能性を追求している。 アイデアスケッチ、発表、プレゼンテーション
技能	素材や用具を効果的に用いながら、用と美を意識して創造的に表現している。 作品課題の取り組み
知識・理解	作品や作者の個性を理解し、表現や材料の工夫などについて分析し理解している。 ワークシート、感想シート、発表

考查点と平常点の割合
考查は実施せず、作品や制作態度、作品提出等で評価する。

考查点と平常点の割合
考查は実施せず、作品や制作態度、作品提出等で評価する。

使用教材等
教科書…なし
経費…教材代(2,000円程度)

使用教材等
教科書…日本文教出版「工芸Ⅱ」
経費…教材代(2,000円程度)

進路・資格等
卒業後の進路…大学・専門学校・短大などに進学し、美術職に就きたい者に勧める。

進路・資格等
卒業後の進路…大学・専門学校・短大などに進学し、美術を生かした職業に就きたい者に勧める。

関連資格…特になし

関連資格…特になし

教科	科目
芸術	音楽理論
単位数	必修修・選択(枠)
2単位	3年次生活表現(E)

**履修条件等**

履修条件等…特になし

人数制限…20人

**学習内容等**

科目の目標…音楽に関する基礎的な知識や法則を理解し、身に付ける。音楽について理論的に思考する能力を養う。

授業形態…一斉授業

年間授業計画	
4月 5 6月	音名(日本語・イタリア語・ドイツ語)と音符・休符、反復記号について学び、楽譜を読む力をつける。
6月 5 9月	音程と和音について学び、楽譜を使って旋律や伴奏の中でどのような効果があるのか考える。
10月 5 12月	様々な音楽を鑑賞し、聴覚と視覚(楽譜、映像、写真など)から得られる情報の比較をする。
12月 5 2月	好きな音楽(ジャンル、アーティストなど)について調べ、さらに楽曲分析をし、まとめる。

観点別評価規準・評価項目	
関心・意欲・態度	音楽に関する基礎的な学習に意欲的に取り組んでいる。 出席状況、授業の取り組み、ファイル
思考・判断・表現	知識や法則を理解し、様々な観点から楽曲の魅力について考えている。 定期考査、授業の取り組み、発表
技能	知識や法則から楽曲の構造を理解し、楽曲の魅力をもとめることができる。 定期考査、発表
知識・理解	楽曲分析をするために必要な音楽に関する基礎的な学習を理解している。 定期考査

**考査点と平常点の割合**

考査:6割 平常点:4割

**使用教材等**

教科書…なし  
副教材…教育出版『Music Navigation』学校作成教材(プリント)

**進路・資格等**

卒業後の進路…保育系の進学、演奏関係、舞台音響音楽系の進学、その他

関連資格…なし

教科	科目
芸術	ソルフェージュ
単位数	必修修・選択(枠)
2単位	3年次生活表現(F)

**履修条件等**

履修条件等…特になし

人数制限…20人

**学習内容等**

科目の目標…音楽表現を豊かなものにする事をする目的とし、音楽表現に必要な基礎的能力向上のために様々な課題に取り組む。

授業形態…一斉授業、グループ活動

年間授業計画	
4月 5 6月	・単音聴音と簡単なリズム聴音の課題を繰り返し行い、音やリズムの違いに気づけるようにする。 ・簡単なリズム譜を正確にたたく。
6月 5 9月	・8種類の音符と休符を使ったリズム譜を正確にたたく。 ・グループに分かれ、リズムアンサンブルを行う。 ・簡単な旋律を聴きとり、楽譜にする。
10月 5 12月	・J-POPを聴きとり、楽譜にする。 ・コンコーネ50番を音程や記号に着目しながら正確に歌う。
12月 5 2月	・コンコーネ50番を音程や記号に着目しながら正確に歌う。 ・音楽理論で学習した音符と休符を使ってリズム譜を作成し、手拍子でたたく。

観点別評価規準・評価項目	
関心・意欲・態度	音楽表現に必要な力をつけるために、様々な課題に意欲的に取り組んでいる。 課題、授業の取り組み
思考・判断・表現	課題の特徴や効果について考えながら、音楽表現をすることができる。 実技試験、課題、授業の取り組み
技能	楽曲を正確に聴いたり、読んだり、音楽表現することができる。 実技試験、授業の取り組み
知識・理解	様々な課題を通して音楽表現に必要な力について理解している。 実技試験、授業の取り組み

**考査点と平常点の割合**

定期考査は実施せず、授業の中で実技試験を行い評価する。

**使用教材等**

教科書…なし  
副教材…学校作成教材(プリント)

**進路・資格等**

卒業後の進路…保育系の進学、演奏関係、舞台音響音楽系の進学、その他

関連資格…なし

教科	科目
芸術	作曲
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次生活表現(G)

**履修条件等**

履修条件等…特になし

人数制限…20人

**学習内容等**

科目の目標…音楽Ⅰ・Ⅱや音楽理論で学習していることを実践する。単旋律や伴奏付け、楽器による効果音、編曲など様々な形で音楽を作り表現する。

授業形態…一斉授業、個人制作

年間授業計画	
4月	・作曲ソフト「Sibelius7」の使い方を学び、課題曲を多数パソコンで入力することで、楽譜入力をできるようにする。
6月	・身近な曲の旋律をリズムを変えて編曲する。
6月	・決められたリズムに音を入れ、ハ長調(♯・♭なし)の単旋律の曲を作る。
9月	・自分でリズムを考え、ハ長調の単旋律の曲を作る。
10月	・1冊の絵本を場面ごとに分け、ストーリーに合うBGMを作る。
12月	・コード(和音)やコード進行について学習し、コードに合うメロディーを考え曲を作る。
12月	・生活表現系列【美術】の生徒の作品(絵)とそのテーマに合う曲を作る。
2月	

観点別評価規準・評価項目	
関心・意欲・態度	音の組み合わせや重なりに関心をもち、イメージをもって学習に主体的に取り組んでいる。 授業の取り組み、学習プリント
思考・判断・表現	イメージを膨らませ、そのイメージに合う音やメロディーを表現している。 授業の取り組み、作品
技能	課題に沿った音の組み合わせ方を身に付け、創造的に表している。 作品
知識・理解	音楽を形づくっている要素を理解し、それらが曲中で生み出す表情や雰囲気の説明ができる。 作品、曲目解説

**考查点と平常点の割合**

定期考查は実施せず、作品と曲目解説で評価する。

**使用教材等**

教科書…なし  
副教材…学校作成教材(プリント)

**進路・資格等**

卒業後の進路…保育系の進学、演奏関係、舞台音響音楽系の進学、その他

関連資格…なし

教科	科目
家庭	フードデザイン
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次人間環境(E)

**履修条件等**

履修条件等…「フードデザイン(AB)」を履修済みであること。

人数制限…20人(施設・設備等による人数制限)

**学習内容等**

科目の目標…栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術の習得。また、今まで通して学んだことを活かし、実生活で応用する能力を身につける。

授業形態…一斉授業・実習

年間授業計画	
4月	食品の生産と流通について学習し、第1次産業の現状と課題を認識し、解決策を探る。
6月	食品の多様化による、生活への影響について学習し、食品を選択するための知識を身につけるとともに、食育の必要性について学習する。
10月	日本の伝統料理と気仙沼の郷土料理について学習するとともに、世界の様々な伝統料理と比較し、類似点や差異を考える。
12月	一人暮らしをしたときに日常的に栄養バランスのとれた料理を作れるよう、献立などについて反復学習をする。
2月	

観点別評価規準・評価項目	
関心・意欲・態度	授業や実習に積極的に取り組み、食に関する内容を進んで理解しようとしている。 出席状況、授業態度
思考・判断・表現	様々な食品の特徴を捉え、自分に必要な食品を選択することができる。 課題、授業プリント
技能	材料の取り扱いや切り方及び、調理工程について理解し、実践することができる。 実習、実技試験
知識・理解	食に関する知識や、調理法等を理解している。 定期考查、課題プリントの取り組み状況

**考查点と平常点の割合**

考查: 6割  
平常点: 4割(出席・態度・課題・身だしなみ・ファイル)

**使用教材等**

教科書…実教出版『フードデザイン』  
副教材…教育図書『トータル・データ 家庭科ガイドブック』(1年次購入済)  
経費…教材費とし7,000円を徴収する。

**進路・資格等**

卒業後の進路…調理系への就職及び進学を希望する者に勧める。

関連資格…全国高等学校家庭科食物調理技術検定2級

教科	科目
理科	自然観察
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次人間環境(F)

**履修条件等**

履修条件等…特になし

人数制限…20名

**学習内容等**

科目の目標… 学校周辺の動植物の観察を通じて、観察の技能や種の同定、環境評価の方法について学ぶ。周囲の自然に積極的に目を向ける姿勢を養い、環境を意識した人間の生活のあり方を考える。

授業形態… 一斉授業・野外観察・実験

年間授業計画	
4月 5 6月	○自然観察の意義・方法を理解する。 ○テーマ:「草花、野鳥、落葉広葉樹」等…観察・採集・スケッチ・種同定・標本作製等を行う。
6月 5 9月	○テーマ:「水生生物、土壌動物、トンボ類」等…観察・採集・スケッチ・種同定・標本作製・環境評価等を行う。
10月 5 12月	○テーマ:「トンボ類、種子散布」等…観察・採集・スケッチ・種同定・標本作製・標本作製等を行う。
12月 5 2月	○テーマ:「樹木の冬芽、針葉樹、常緑樹」等…観察・採集・スケッチ・種同定等を行う。

観点別評価規準・評価項目	
関心・意欲・態度	積極的に生物を観察・採集し、詳しく丁寧な記録を行う。 採集種数・個体数、スケッチ、観察時の記録
思考・判断・表現	指標生物の観察データから、その環境の豊かさを評価できる。 水生生物や土壌動物による環境評価
技能	対象を正確にスケッチし、図鑑等の資料を用いて種を同定できる。標本を正しく作製できる。 スケッチ、種の同定、標本作製、観察時の記録
知識・理解	観察に必要な基本用語や手順を理解し、正しく用いることができる。 種の同定、観察時の記録

**考查点と平常点の割合**

考查: 平常点:10割

**使用教材等**

教科書…なし  
副教材…学校作成教材(プリント)  
経費…材料費として300円を徴収する。

**進路・資格等**

卒業後の進路…特になし

関連資格…特になし

教科	科目
家庭	環境と衣食住
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次人間環境(G)

**履修条件等**

履修条件等…特になし

人数制限…20人

**学習内容等**

科目の目標… 衣生活・食生活・住生活の営みと環境との関わりについて、様々な視点から学習を深め、実習を通して環境保全にむけてそれぞれの生活の場面で実践する能力と態度を育てる。

授業形態… 一斉授業・実習

年間授業計画	
4月 5 6月	環境、環境問題について考える。 ・現代の抱える様々な環境問題について取り上げ、各自のテーマに基づいて調査・研究を行い発表する。
6月 5 9月	環境と衣生活について考える。 ・衣服のリメイク ・エコバッグ製作 ・草木染め
10月 5 12月	環境と食生活について考える。 ・エコクッキング ・ゴミを出さない料理作り ・生ゴミの処理
12月 5 2月	環境と住生活について考える。 ・ゴミの分別、資源のリサイクル ・洗剤を使わない掃除 ・廃油を使った石けん・キャンドル作り

観点別評価規準・評価項目	
関心・意欲・態度	現代の環境問題について関心をもち生活と環境について情報を収集している。 課題提出
思考・判断・表現	環境問題について自分のテーマに基づいて調査研究を行い、現状や課題を明らかにしてその内容についてまとめ、発表している。 課題提出、調べ学習のまとめ、発表
技能	環境に優しい生活の実践にあたり、技術を身に付け、環境問題に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。 課題提出、作品提出
知識・理解	環境問題について学習した内容に関する知識を身に付け、環境問題の意義を理解している。 課題提出、小テスト

**考查点と平常点の割合**

小テスト:2割 平常点:8割(作品,出席状況,態度,意欲)

**使用教材等**

教科書…なし  
副教材…学校作成教材(プリント)  
経費…材料費として3,000円を徴収する。

**進路・資格等**

卒業後の進路…特になし

関連資格…特になし



教科	科目
農業	総合実習
単位数	必修修・選択(枠)
4単位	3年次人間環境(EF)

**履修条件等**

履修条件等…長期休暇中(夏季・春季)における農場実習を必修とする。

人数制限… 20名(野菜10名・草花10名)

**学習内容等**

科目の目標… 野菜または草花の授業で学ぶ内容をプロジェクトとして実践するために必要な知識と技術の習得を目指す。農業クラブプロジェクト発表宮城県大会での発表をおこなうことがある。

授業形態… 一斉授業・実験・実習・ワークシート

年間授業計画	
4月 5月 6月	プロジェクト研究について理解し、どのようなプロジェクトを始めるか検討・計画する。
6月 7月 9月	プロジェクト研究を実践し、途中経過をまとめたものを校内発表(中間)する。
10月 11月 12月	プロジェクト研究を実践し、途中経過をまとめたものを、農業クラブプロジェクト発表会宮城県大会で発表する。
12月 1月 2月	プロジェクト研究を実践し、一年間の実践のまとめを校内発表(期末)する。

観点別評価規準・評価項目	
関心・意欲・態度	授業や実習に積極的に取り組み、プロジェクト対象物の特徴を進んで理解しようとする。 出席状況、授業や実習に対する取り組み
思考・判断・表現	プロジェクト対象物の特徴を理解し、栽培方法などについて自ら進んで工夫しようとする。 授業への取り組み、ノートやプリントへの記帳
技能	実習を通して、自ら進んで栽培技術を身に付けようとする。 実習への取り組み
知識・理解	プロジェクト対象物の特徴を理解し、作業への工夫などを考えて行動しようとする。 プロジェクト発表、ノートやプリントへの記帳

**考查点と平常点の割合**

平常点:10割(プロジェクト校内発表を行い、その成果から評価する。他に、ノート、ワークシート、授業への参加状況から評価する。)

**使用教材等**

教科書…なし  
副教材…学校作成教材(プリント)  
経費…実習費等

**進路・資格等**

卒業後の進路…農業関係の進路(進学・就職)を希望する者

関連資格…農業・野菜・土壌肥料関係資格(希望者)

教科	科目
理科	自然観察
単位数	必修修・選択(枠)
2単位	3年次人間環境(G)

**履修条件等**

履修条件等…特になし

人数制限… 20名

**学習内容等**

科目の目標… 学校周辺の動植物の観察を通じて、観察の技能や種の同定、環境評価の方法について学ぶ。周囲の自然に積極的に目を向ける姿勢を養い、環境を意識した人間の生活のあり方を考える。

授業形態… 一斉授業・野外観察・実験

年間授業計画	
4月 5月 6月	○自然観察の意義・方法を理解する。 ○テーマ:「草花、野鳥、落葉広葉樹」等…観察・採集・スケッチ・種同定・標本作製等を行う。
6月 7月 9月	○テーマ:「水生生物、土壌動物、トンボ類」等…観察・採集・スケッチ・種同定・標本作製・環境評価等を行う。
10月 11月 12月	○テーマ:「トンボ類、種子散布」等…観察・採集・スケッチ・種同定・標本作製・標本作製等を行う。
12月 1月 2月	○テーマ:「樹木の冬芽、針葉樹、常緑樹」等…観察・採集・スケッチ・種同定等を行う。

観点別評価規準・評価項目	
関心・意欲・態度	積極的に生物を観察・採集し、詳しく丁寧な記録を行う。 採集種数・個体数、スケッチ、観察時の記録
思考・判断・表現	指標生物の観察データから、その環境の豊かさを評価できる。 水生生物や土壌動物による環境評価
技能	対象を正確にスケッチし、図鑑等の資料を用いて種を同定できる。標本を正しく作製できる。 スケッチ、種の同定、標本作製、観察時の記録
知識・理解	観察に必要な基本用語や手順を理解し、正しく用いることができる。 種の同定、観察時の記録

**考查点と平常点の割合**

考查: 平常点:10割

**使用教材等**

教科書…なし  
副教材…学校作成教材(プリント)  
経費…材料費として300円を徴収する。

**進路・資格等**

卒業後の進路…特になし

関連資格…特になし

教科	科目
農業	植物バイオテクノロジー
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次人間環境(H)

**履修条件等**

履修条件等…長期休暇中(夏季・春季)における農場実習を必修とする。

人数制限… 20名(野菜10名・草花10名)

**学習内容等**

科目の目標… 植物バイオテクノロジーの基礎知識・技術の習得を目指す。

授業形態… 一斉授業・実験・実習・ワークシート

年間授業計画	
4月 5月 6月	植物バイオテクノロジーで用いる機器・器具の使用 方法や、培地の作成方法について学ぶ。
6月 7月 9月	器官培養をおこない、植物バイオテクノロジーの 基礎技術を身に付ける。
10月 11月 12月	遺伝子やDNAについて学び、植物バイオテクノロ ジーの応用技術を理解する。
12月 1月 2月	バイオマスエネルギーについて学び、物質の循 環や生態系、環境の保全や維持活動について考 える。

観点別評価規準・評価項目	
関心・意欲・態度	授業や実習に積極的に取り組み、植物バイオテ クノロジーの特徴を進んで理解しようとする。 出席状況、授業や実習に対する取り組み
思考・判断・表現	植物バイオテクノロジーの特徴を理解し、培養方 法などについて自ら進んで工夫しようとする。 授業への取り組み、ノートやプリントへの記帳
技能	実習を通して、自ら進んで植物バイオテクノロ ジー技術を身に付けようとする。 実習への取り組み
知識・理解	植物バイオテクノロジーの特徴を理解し、作業へ の工夫など考えて行動しようとする。 定期試験、ノートやプリントへの記帳

**考查点と平常点の割合**

考查:7割  
平常点:3割 ノート、ワークシート、授業への参加状況

**使用教材等**

教科書…実教出版『植物バイオテクノロジー』  
副教材…学校作成教材(プリント)  
経費…白衣代・実習費等

**進路・資格等**

卒業後の進路…農業関係の進路(進学・就職)を希望する者

関連資格…植物バイオテクノロジー関係資格(希望者)

教科	科目
農業	野菜
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次人間環境(K)

**履修条件等**

履修条件等…長期休暇中(夏季・春季)における農場実習を必修とする。

人数制限… 10名

**学習内容等**

科目の目標… 野菜の種類、生理・生態を学び、実際に栽培実  
習を行う。さらに野菜の生育に及ぼす気象的、土  
壌的、生物的要素の影響について学習する。

授業形態… 一斉授業・実験・ワークシート

年間授業計画	
4月 5月 6月	野菜の種類や品種について学び、これから育て ようとする野菜の基礎知識を得る。畑作りを通し て、土壌・肥料の基礎知識を得る。
6月 7月 9月	野菜の「生産と利用」、「需要と販売」について学 び、商品化と経営について考える。
10月 11月 12月	栽培環境について学び、露地栽培やハウス栽培 についての基礎知識を得る。
12月 1月 2月	地域の野菜とその活用について学び、地域活性 化への利用についての知識を得る。

観点別評価規準・評価項目	
関心・意欲・態度	授業や実習に積極的に取り組み、野菜の特徴を 進んで理解しようとする。 出席状況、授業や実習に対する取り組み
思考・判断・表現	野菜の特徴を理解し、栽培方法などについて自 ら進んで工夫しようとする。 授業への取り組み、ノートやプリントへの記帳
技能	実習を通して、自ら進んで栽培技術を身に付け ようとする。 実習への取り組み
知識・理解	野菜の特徴を理解し、作業への工夫など考えて 行動しようとする。 定期試験、ノートやプリントへの記帳

**考查点と平常点の割合**

考查:7割  
平常点:3割 ノート、ワークシート、授業への参加状況

**使用教材等**

教科書…実教出版『野菜』  
副教材…学校作成教材(プリント)  
経費…実習費等

**進路・資格等**

卒業後の進路…農業関係の進路(進学・就職)を希望する者

関連資格…農業・野菜・土壌肥料関係資格(希望者)

教科	科目
農業	草花
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次人間環境(K)

**履修条件等**

履修条件等…長期休暇中(夏季・春季)における農場実習を必修とする。

人数制限… 10名

**学習内容等**

科目の目標… 草花の種類、生理・生態を学び、実際に栽培実習を行う。さらに草花の生育に及ぼす気象的、土壌的、生物的要素の影響について学習する。

授業形態… 一斉授業・実験・ワークシート

年間授業計画	
4月 ∩ 6月	草花の種類や品種について学び、これから育てようとする草花の基礎知識を得る。畑作りを通して、土壌・肥料の基礎知識を得る。
6月 ∩ 9月	草花の「生産と利用」、「需要と販売」について学び、商品化と経営について考える。
10月 ∩ 12月	栽培環境について学び、露地栽培やハウス栽培についての基礎知識を得る。
12月 ∩ 2月	地域の草花とその活用について学び、地域活性化への利用についての知識を得る。

**観点別評価規準・評価項目**

関心・意欲・態度	授業や実習に積極的に取り組み、草花の特徴を 進んで理解しようとする。
	出席状況、授業や実習に対する取り組み
思考・判断・表現	草花の特徴を理解し、栽培方法などについて自ら 進んで工夫しようとする。
	授業への取り組み、ノートやプリントへの記帳
技能	実習を通して、自ら進んで栽培技術を身に付け ようとする。
	実習への取り組み
知識・理解	草花の特徴を理解し、作業への工夫など考えて 行動しようとする。
	定期試験、ノートやプリントへの記帳

**考查点と平常点の割合**

考查:7割  
平常点:3割 ノート、ワークシート、授業への参加状況

**使用教材等**

教科書…実教出版『草花』  
副教材…学校作成教材(プリント)  
経費…実習費等

**進路・資格等**

卒業後の進路…農業関係の進路(進学・就職)を希望する者

関連資格…農業・野菜・土壌肥料関係資格(希望者)

教科	科目
福祉	生活支援技術
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次人間環境(E)

**履修条件等**

履修条件等…特になし

人数制限… 15人

**学習内容等**

科目の目標… 利用者の自立の支援を目的とする介護の役割を理解するとともに、基礎的な介護の知識と技術を身に付ける。さまざまな介護場面の中で、介護技術を実践に移す能力と態度を身に付ける。

授業形態… 一斉授業

年間授業計画	
4月 ∩ 6月	食事の意義、目的を理解し、ICFの視点を活かしたその人の食に対する望ましい介護のあり方を考察する。
6月 ∩ 9月	入浴・清潔保持の意義、目的を理解し、入浴時の身体への作用、観察の必要性や事故に向けた留意点にふれ、ICFの視点を活かした望ましい介護のあり方を考察する。
10月 ∩ 12月	安眠に向けた環境整備の方法、利用者の心身の状態や状況に応じた睡眠の介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。
12月 ∩ 2月	個人の尊厳を重視した終末期ケアの意義と介護が持つ役割について理解する。終末期におけるチームケアを図る上で必要な連携や支援のあり方を考察する。

**観点別評価規準・評価項目**

関心・意欲・態度	自立を支援する介護に関心、意欲を持って学 び、自己の向上を目指している。
	出席状況、授業や実習に対する取り組み
思考・判断・表現	介護を実践していく上で、その方法を利用者視 点で考え表現する能力を身に付けている。
	出席状況、授業や実習に対する取り組み
技能	介護の知識のもと、利用者の自立と安全を重視し た活動を実践していく能力を身に付けている。
	実習への取り組み
知識・理解	基礎的な介護のあり方、介護実践の根拠となる人 体の構造や機能について理解している。
	定期試験、ノートやプリントへの記帳

**考查点と平常点の割合**

考查:6割  
平常点:4割 (出席・態度・意欲・身だしなみ・ファイル)

**使用教材等**

教科書…実教出版『生活支援技術』

**進路・資格等**

卒業後の進路…福祉関係

関連資格…福祉関係資格(希望者)

教科	科目
家庭	フードデザイン(福祉)
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次人間環境(F)

**履修条件等**

履修条件等…特になし

人数制限…15人

**学習内容等**

科目の目標…食生活の自立に必要な栄養、食品、献立、調理などに関する知識と技術を習得し、福祉関係の仕事に就いたときに食について考えるための基盤を身につける。

授業形態…一斉授業・実習

年間授業計画	
4月 ∩ 6月	食事の意義と役割について、身体を作る栄養素と食生活を豊かにするものという二つの視点から学習する。
6月 ∩ 9月	各栄養素の働きと役割について、栄養素と食品を関連させて特徴を学習する。また、食品の衛生と安全について、食中毒の事例をもとに対策等を考える。
10月 ∩ 12月	多様な食品があふれている中で、表示を読み取り選択する能力を養う。また、様々な加工品を利用した実習等を行い、実践的に特徴を理解する。
12月 ∩ 2月	ライフステージ(高齢者)に応じた献立など、様々なテーマを設定して、食事計画を立てる。

観点別評価規準・評価項目	
関心・意欲・態度	授業や実習に積極的に取り組み、食にまつわる内容を進んで理解しようとしている。 出席状況、授業態度
思考・判断・表現	食生活の問題点を指摘し、改善策を考えることができる。 課題、ワークシート
技能	場面に応じて適切な調理操作ができる。 実習への取り組み
知識・理解	食にまつわる知識や、調理法等を理解している。 定期考査、課題プリントの取り組み状況

**考査点と平常点の割合**

考査:6割  
平常点:4割(出席・態度・課題・身だしなみ・ファイル)

**使用教材等**

教科書…実教出版『フードデザイン』  
副教材…教育図書『トータル・データ 家庭科ガイドブック』(一年次購入済)  
経費…教材費として7,000円を徴収する。

**進路・資格等**

卒業後の進路…福祉系への就職を希望する者に勧める。

関連資格…全国高等学校家庭科食物調理技術検定 4・3級

教科	科目
福祉	こころとからだの理解
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次人間環境(G)

**履修条件等**

履修条件等…特になし

人数制限…15人

**学習内容等**

科目の目標…自立を尊重した生活を支援するために必要なこころとからだの基礎的な知識を習得し、介護実践に適切に活用できる能力を身につける。

授業形態…一斉授業・実習

年間授業計画	
4月 ∩ 6月	介護従事者として必要な、基本的なこころのしくみについて理解する。人間のこころとは何か、人間の欲求や尊厳と関連させながら考え、理解する。
6月 ∩ 9月	介護従事者として必要な、基本的なからだのしくみについて理解する。人間がどう生命を維持し、機能のバランスをとりながら生きているかを理解する。
10月 ∩ 12月	介護従事者として必要な、基本的なからだのしくみについて理解する。人間がどう生命を維持し、機能のバランスをとりながら生きているかを理解する。
12月 ∩ 2月	生活支援と心身の構造の関連を考察し、安全で安楽な介護技術を提供するために必要な身体各部位の構造を統合させる。

観点別評価規準・評価項目	
関心・意欲・態度	介護に関心をもち、より安全で安楽な介護技術の提供を目指して取り組んでいる。 出席状況、授業や実習に対する取り組み
思考・判断・表現	安全安楽な介護を目指して、心身に対する思考を深め、尊厳ある接し方を身に付けている。 出席状況、授業や実習に対する取り組み
技能	人間の心身の構造や機能を理解した上で、安全、安楽な介護技術を身に付けている。 実習への取り組み
知識・理解	安全、安楽な介護技術を提供するための、心身の構造や機能に関する知識を身に付けている。 定期試験、ノートやプリントへの記帳

**考査点と平常点の割合**

考査:6割  
平常点:4割(出席・態度・意欲・身だしなみ・ファイル)

**使用教材等**

教科書…未定

**進路・資格等**

卒業後の進路…福祉関係

関連資格…福祉関係資格(希望者)